

令和 5 年度

教職課程自己点検・評価報告書

令和 6 年 3 月

京都光華女子大学

目 次

序・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 1
教職課程の現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 2
基準ごとの自己点検・評価	
基準1．教職課程に関する組織的工夫□・・・・・・・・	P. 5
評価項目1－（1）教職課程自己点検評価の組織的体制整備	
評価項目1－（2）各学科および教職課程を担う事務部門との連携	
基準2．教職課程カリキュラム編成・実施□・・・・・・・・	P. 7
評価項目2－（1）教職課程科目相互とそれ以外の学科科目との系統性の充実	
評価項目2－（2）教職課程コアカリキュラムへの対応とICT活用	
基準3．教職を担うべき適切な人材（学生）の育成と実践的指導力育成・・・・・・・・	P. 13
評価項目3－（1）教職課程の質向上のためのFD・SDの実施とキャリア形成支援	
評価項目3－（2）教職課程履修カルテの活用	
今後の教職課程教育・運営の課題（総合評価）・・・・・・・・	P. 21
作成プロセス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 15
現状基礎データ票・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 22

序

令和5年度教職課程自己点検評価について

令和4年度の教職課程自己点検評価は、一般財団法人全国私立大学教職課程協会版「教職課程自己点検評価基準」の六つの基準項目について実施した。令和5年度については、何を検証すればよいかに重点を置きながら自己点検評価することとし、令和4年度にみえてきた課題をどう改善していくかについて、大学独自項目を設定し、点検・評価を実施した。

(1) 令和4年度教職課程自己点検評価における課題

- ① 引き続き、教職課程自己点検評価の組織的体制整備や点検サイクルなどの可視化を行う。
- ② 各学科および教職課程を担う事務部門との密なる連携を維持・発展し、教員間の情報交換を行い、教職課程を設置する全ての学部が当事者意識をもって、科目相互とそれ以外の学科科目との系統性の充実をはかる。
- ③ 各学年の到達目標達成状況を把握するための「履修カルテ」の活用を促進。
- ④ 育成すべき資質・能力を見据えた上での情報機器の活用。
- ⑤ 教職課程の質向上のために、FDやSDのさらなる取り組み。

(2) 令和5年度教職課程自己点検評価の基準・項目

基準1 教職課程に関する組織的工夫

評価項目1－(1) 教職課程自己点検評価の組織的体制整備

評価項目1－(2) 各学科および教職課程を担う事務部門との連携

基準2 教職課程カリキュラム編成・実施

評価項目2－(1) 教職課程科目相互とそれ以外の学科科目との系統性の充実

評価項目2－(2) 教職課程コアカリキュラムへの対応とICT活用

基準3 教職を担うべき適切な人材（学生）の育成と実践的指導力育成

評価項目3－(1) 教職課程の質向上のためのFD・SDの実施 とキャリア形成支援

評価項目3－(2) 教職課程履修カルテの活用

【年度別評価内容（全私教協版「教職課程自己点検評価基準」の基準項目）】□

	令和4年度	令和5年度
教職課程教育の目標・目的の共有	○	
教職課程に関する組織的工夫	○	○
教職を担うべき適切な人材（学生）確保・育成	○	一部○
教職へのキャリア支援	○	一部○
教職課程カリキュラムの編成・実施	○	○
実践的指導力育成と地域との連携	○	一部○

教職課程の現状

1. 現状

- (1) 大学名：京都光華女子大学
 (2) 所在地：京都市右京区西京極葛野町38
 (3) 教職課程認定学部・学科

こども教育学部	こども教育学科		幼稚園教諭一種免許状
			小学校教諭一種免許状
健康科学部	健康栄養学科	管理栄養士専攻	栄養教諭一種免許状
		健康スポーツ栄養専攻	栄養教諭二種免許状
			中学校・高等学校一種免許状(保健体育)
	看護学科	養護教諭一種免許状	
大学院	心理学研究科	臨床心理学専攻	高等学校教諭 専修免許状（公民）

- (4) 学生数及び教員数 令和5年5月1日現在

【学生数】

こども教育学部 こども教育学科	教職課程履修	208名／学科全体	208名
健康科学部 健康栄養学科	教職課程履修	107名／学科全体	427名
健康科学部 看護学科	教職課程履修	48名／学科全体	381名
心理学研究科 臨床心理学専攻	教職課程履修	0人／研究科全体	20名

【教員数】

こども教育学科	教職課程科目 (教職・教科とも) 担当16名／学科全体17名 (専任教員)
健康栄養学科	教職課程科目 (教職・教科とも) 担当10名／学科全体16名 (専任教員)
看護学科	教職課程科目 (教職・教科とも) 担当15名／学科全体28名 (専任教員)

(5) 学部・学科ごとの免許・資格取得者数と教職・保育職者数（卒業時）

学部・学科	区分	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
こども教育学部 こども教育学科	卒業生数 ※秋卒業込	60	77	79	77	69
	免許・資格 取得者数	実人数	60	75	78	77
		幼稚園教諭一種	59	74	78	77
		小学校教諭一種	24	22	21	34
		保育士	48	59	66	59
	教員・保育職就職者数	45	65	65	66	58
健康科学部 健康栄養学科 管理栄養専攻	卒業生数	82	83	85	82	84
	免許取得者数	栄養教諭一種	4	1	1	0
	教員就職者数	0	1	0	0	1
健康科学部 健康栄養学科 健康スポーツ栄養専攻	卒業生数	39	35	41	39	39
	免許取得者数	実人数	8	7	13	9
		栄養教諭二種	8	7	4	5
		中学校教諭一種(保健体育)			9	5
		高等学校教諭一種(保健体育)			9	5
	教員就職者数	0	0	3	2	2
健康科学部 看護学科	卒業生数	97	84	94	79	99
	免許取得者数	養護教諭教諭一種	13	10	13	5
	教員就職者数	3	3	0	3	2
健康科学部 医療福祉学科	卒業生数	16	26	13	14	25
	資格取得者数	保育士	5	7	0	7
	保育職就職者数		1	5	0	6
健康科学部 心理学科	卒業生数	27	27	23	40	55
	資格取得者数	保育士	1	2	1	3
	保育職就職者数		1	2	0	3

2. 特色

・大学の理念・目的は、学則で「学校教育法に定める大学として学術を研究教授し、広く文化の進展に寄与するとともに、仏教精神により円満なる人格を涵養し、もって有為なる女性を育成することを目的とする」と明記されている。（資料2-1）仏教精神により円満なる人格の涵養とは、校訓「真実心」に基づき、仏教精神である智慧と慈悲によって、向上心、潤いの心、感謝の心という光華の心を持つ学生を育成する教育的営みのことである。

・本学は、女子大学としての特性を生かし、知性や感性など女性のもつ良さを磨き、品格と人間力を育むことを目的に創設された。将来教員となることを強く希望する学生が、教育の専門職にたるにふさわしい学力を確実に身につけ、「主体的な人間」として、専攻分野の知識に基づき、教育者として必要な幅広い知識や様々な技術を習得すること、同時に「共に生きる人間」として、豊かな人間性を養いその資質を高めるための機会を提供することを目的とする。

・全学的に養成しようとする教師像として、次のような資質・能力を形成することに努める。

- ① 「建学の精神」である真実心を教育理念とした信念のある教師
- ② 広い識見と専門的な知識を有する実践力のある教師
- ③ 教育職に対する使命と責任を重んじ、児童・生徒を大切にする教師
- ④ 保護者・地域と連携し、開かれた学校づくりを担える教師
- ⑤ 社会の変化に柔軟に対応しうる教師

・育成を目指す教師像の実現に向けて、教職・保育職委員会で教職課程の目的・目標を共有し、さらに教職課程に関する情報公開も行っている。（資料2-2）

・学園創立80周年を機に、人生100年時代、超スマート社会に対応できる光華教育をさらに発展させるため、2019(令和元)年3月に「光華ビジョン2030」（資料2-3）が策定された。このビジョンで示された理念や方針を踏まえつつ、理念・目的にそって体系的な教育課程を編成し、事業計画（資料2-4）のもとに学生の主体的な学びができるよう、建学の精神を具現する教員養成に向けて取り組んでいる。

<本項目の根拠となる資料・データ等>

・資料2-1：京都光華女子大学学則

https://www.koka.ac.jp/wp-content/themes/www/assets/file/introduction/regulations/2022daigaku_gakusoku.pdf

・資料2-2：教職課程に関する情報公開URL

https://www.koka.ac.jp/wp-content/themes/www/assets/file/introduction/publish/kyosyokukatei_koukai2023.pdf

・資料2-3：光華ビジョン2030

<https://gakuen.koka.ac.jp/koka80th/vision/>

・資料2-4：事業計画（2023年度）

<https://gakuen.koka.ac.jp/wpgakuen/wp-content/uploads/2023/06/2023%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E4%BA%8B%E6%A5%AD%E8%A8%88%E7%94%BB%E6%9B%B8.pdf>

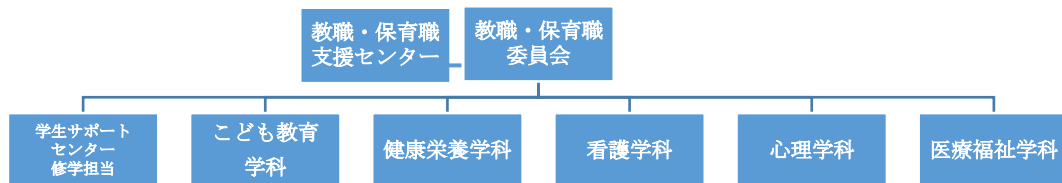
基準 1 教職課程に関する組織的工夫

[状況説明]

・教職・保育職委員会にて、教職課程の自己点検・評価を実施し、さらに、大学自己点検評価委員会にてその内容を検証することで、内部質保証と繋げて全学的に機能させていくためのシステム構築がされており、組織的に点検・評価を実施している。これらは、教職課程の教育・運営を全学的に取り組んでいることを示している。（資料１－（１）－２）

- ・よりよい教職課程の実現にむけて、課題を全学的に共有し、改善の方策を考える体制が整っている。よって、多くの教職員が自己点検評価の活動に参加し、当事者意識を持ち始めている。
- ・大学内の組織間の有機的な連携を図り適切な体制を整えており、今後は、教職課程自己点検・評価を、大学における他の自己点検・評価や認証評価と兼ねて行う方向で調整しながらさらなる充実をすすめる。

・資料 1 - (1) - 1 : 教職・保育職委員会体制図



京都光華女子大学および大学院・短期大学における内部質保証体制図

理事会
理事長
外部評価

学長

EM・IR部
・教育研究、大学運営に関する情報収集、管理、分析、提案

FD委員会
・FDの推進
・教育内容・方法の改善

全学的内部質保証

大学運営会議
・全学の内部質保証推進
・大学全体の内部質保証の評価

自己点検評価委員会
・自己点検・評価の実施
・認証評価改善のための実施計画の策定及び実施

各組織の内部質保証

各学科会議
・内部質保証の推進
・自己点検・評価の実施

各研究科会議
・内部質保証の推進
・自己点検・評価の実施

各センター等
・内部質保証の推進
・自己点検・評価の実施

事務部門
・内部質保証の推進
・自己点検・評価の実施

各専門委員会
・内部質保証の推進
・自己点検・評価の実施

基準 1 教職課程に関する組織的工夫

評価項目 1－（２）各学科および教職課程を担う事務部門との連携

[状況説明]

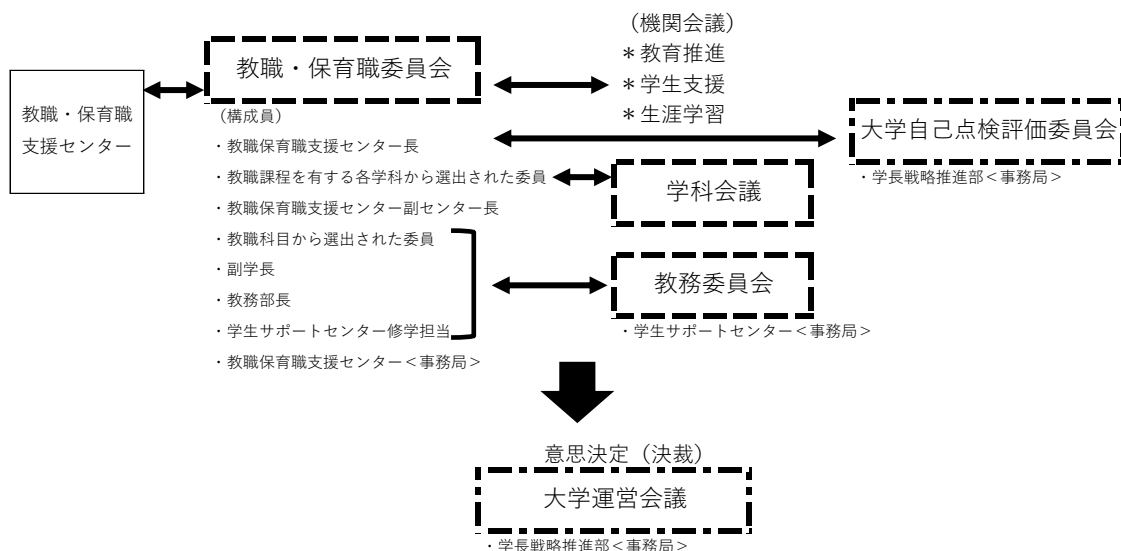
- ・教職保育職委員会は、教職課程の編成やカリキュラム検証と改善を図るために、教務部長と教務委員会を主催する学生サポートセンター修学担当が参画している。また、教務委員会へ教職に関する科目の担当者が入ることで情報の共有がされており、教職課程の在り方を恒常的に自己点検するために組織的に機能している。（資料 1－（２）－１）
- ・教職課程に関する履修や学習指導、教育実習やインターンシップ、ボランティア活動等における学校や教育委員会との連携協力など、大学全体として横断的に教職課程を運営していく上でのマネジメント的な役割を担う機関として、教職・保育職支援センターを設け学内でオーソライズされている。また、教職課程認定申請や変更届に関して、複数の部署にて業務を分掌することで、教職課程を大学全体として運営していく体制をとっており、また業務の効率化を図っている。
- ・学長戦略推進室(企画立案・教員人事等)と学生サポートセンター修学担当(単位認定実務・カリキュラム編成)と教職・保育職支援センター(学生確保育成、実習支援、キャリア支援、教職課程変更届)が連携し、情報共有しながら、必要な授業科目を開設し適切な役割分担が成されている。

[効果が上がっている事項]

- ・毎年実施している卒業生満足度アンケートによる、教職・保育職支援センターの対応についての学生満足度は「満足＋やや満足」の合計＝ポジティブ解答率が95%（令和4年度）と高い評価である。また「満足」＝強い肯定の回答率だけみれば、57.6%で、2年連続増加傾向にある。（2021年度53.6%、2020年度49.2%）（資料 1－（２）－２）
- ・教職保育職委員会のさらなる活性化を図り、教職課程自己点検評価をポジティブな活動として捉え、見えてきた課題を、教職課程の改善のチャンスと考え、次の学生指導へ繋げている。

<本項目の根拠となる資料・データ等>

- ・資料 1－（２）－１）：教員養成に係る組織体制



- ・資料 1－（２）－２：2022年度卒業生満足度アンケート

https://www.koka.ac.jp/wp-content/themes/www/assets/file/introduction/publish/satisfaction_2022.pdf

基準2 教職課程カリキュラム編成・実施

基準項目2－(1) 教職課程科目相互とそれ以外の学科科目との系統性の充実

[状況説明]

- ・令和5年度より「履修のてびき」へ、複数の教職課程間における授業科目の共通開講について記載し、全学的な教育課程の状況を明示している。(資料2－(1)－1)
- ・ディプロマポリシーを実現するための、カリキュラム作成上の方針(カリキュラムポリシー)に基づいて、カリキュラムマップを毎年作成し、教員として必要な知識や技能を身に付けることが出来るよう適切な履修指導を行っている。(資料2－(1)－2)
- ・カリキュラムマップは、各教育課程における授業科目に「到達目標」を3つ設定し、ディプロマポリシーの各項目(DP1～DP15)が、具体的にどの科目によって実現されているかを示しており、学生がやるべきことが明確になっており、体系的な教育課程の編成が行われている。
- ・カリキュラムチャートにて、学科科目との系統性について明示しており、学科の目的等を踏まえ、系統性を確保しながらカリキュラム編成をしている。(資料2－(1)－3)

[効果が上がっている事項]

- ・例えば「特別支援教育」は複数学科への共通開講であるが、授業内でデフスポーツなど豊富な経験と知見のあるゲストスピーカーを招くことで、学外の諸機関との連携の下、教職課程履修者の基本的態度を豊かにし実践的な学びを提供している。
- ・こども教育学科では、1年生次の「基礎ゼミⅠ」にて“初年次インターン”を設け、併設の幼稚園や小学校にて子どもの様子や学習の様子を知るとともに、教員の指導や子どもとの関わりから教員となる心構えを学び、これからの自分の学びの課題を明確にする。学生にとって、子どもの様子や教員の指導・支援の具体的なイメージをもつ機会となっている。(資料2－(1)－4)

[取り組み上の課題]

- ・教職へのイメージ低下や教員採用試験の倍率低下、そして採用試験時期の前倒しなどの状況を踏まえると、今後、柔軟に教育実習を履修できる方法などについてカリキュラムマップ、ナンバリング、カリキュラム・チャートを用いてカリキュラム全体を見直し、配当年次の引き下げ等を検討する必要がある。この件について、教務委員会において報告しており、今後、学生の状況をみて、見直す必要があれば迅速に対応していく。(資料2－(1)－5)
- ・看護学科では、日本看護教諭養成大学協議会のカリキュラム委員を担当している。看護教諭は、教育学、心理学、社会福祉学、看護学等多様な学問体系において養成がなされており、卒業時に必要な力を明確に示す標準的なコアカリキュラムの作成が目指されている。本学学生は、2年次に看護学の演習科目も多くなり、教職科目を中心に学校保健など24単位を上乗せ履修しなければならない、看護学の知識が浅くなる可能性があり、教職科目の配当年次を再検討する。
- ・教職科目担当教員間、または学科科目担当教員と教職科目担当教員の間で、それぞれの授業内容への共通理解が乏しい。

<本項目の根拠となる資料・データ等>

- ・資料2－(1)－1：2023年度履修のてびき
- ・資料2－(1)－2・3：カリキュラムマップ カリキュラムフローチャート
<https://www.koka.ac.jp/introduction/policy.html#curriculumMap>
- ・資料2－(1)－4：こども教育学科「初年次インターン」
<https://www.koka.ac.jp/child/news/4197/>

2023年度入学生の教職課程カリキュラムツリー

学び続ける教師

☆領域及び保育内容の指導法に関する科目
★教科及び教科の指導法に関する科目

教育の基礎的理解に関する科目

道徳、総合的な学習の時間の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目

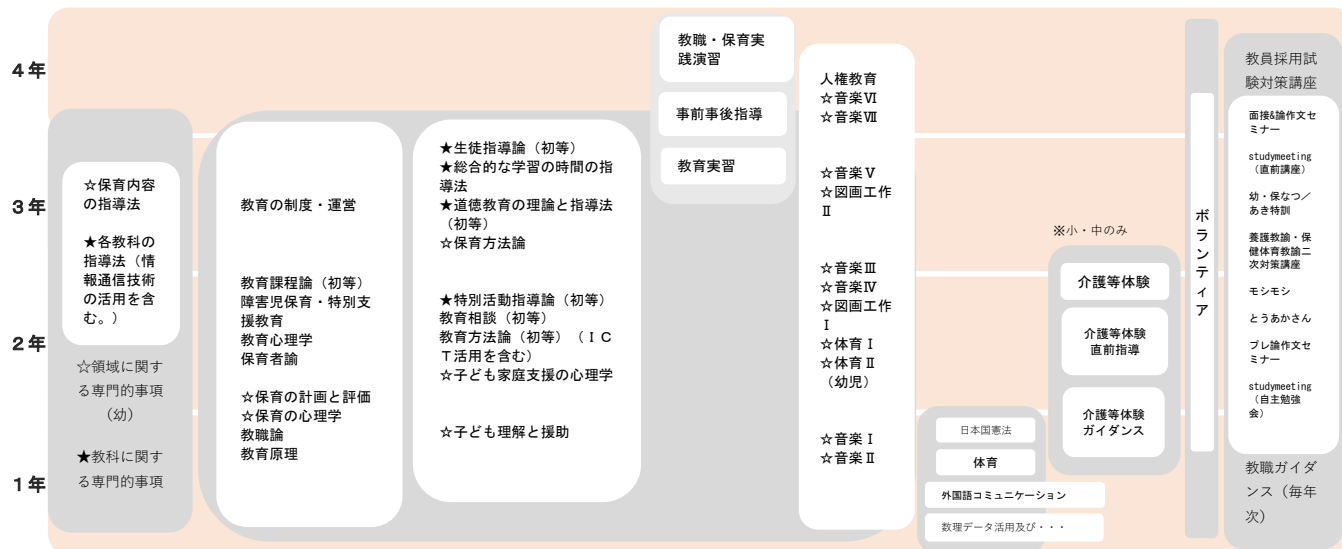
教育実践に関する科目

大学が独自に設定する科目

文部科学省令に定める科目

教職・保育職支援センター主催

【幼稚園☆・小学校★】



【中学校・高等学校・栄養・養護】



基準2 教職課程カリキュラム編成・実施

基準項目2－（2）教職課程コアカリキュラムへの対応とICT活用

[状況説明]

・学科において養成したい教員像や教職コアカリキュラム等に基づき、各授業科目において、授業の目標や到達目標が設定され、到達目標達成のために必要な授業内容・方法・計画と成績評価基準が授業シラバスに示されている。（資料2－（2）－1）

・「各教科の指導法」や「教職実践演習」においては、積極的にICTを活用した実践を進めており、各教科の特性に応じた効果的なICT法について模擬授業に取り入れるなど、指導力、実践力の向上が図られている。

・教職・保育職委員会において、教職科目のシラバス作成と内容の充実について「コアカリキュラム対応表」にて点検し、教職課程コアカリキュラムに対応した教職課程カリキュラムを編成していることを確認し、全学的なチェック体制が確立されている。（資料2－（2）－2）

・加盟している京都地区大学教職課程協議会では、教育実習受け入れ校を対象にアンケートを実施し、その結果や実習状況について情報交換・共有をはかっている。本学でも、ICT活用指導力について調査結果を、教職・保育職委員会にて共有し指導に役立てている。（資料2－（2）－3）

アンケートの結果、79%の実習先で「ICTを活用した授業を実施した」という結果が出た。「使用しなかった」と答えた校種は、小学校教育実習4人、養護実習3人であった。

教育実習においてICTの使用に関して「困らなかった」と回答している学生は82%。また、「大変困った」という回答は0人であった。大学の授業において、育成すべき資質・能力を見据えた上での情報機器の活用について、一定の成果が出ていると言える。

・ICT機器等を備えた教室棟（教職実習室や保育実習室など）を中心に授業がおこなわれており、また学生サポートセンター修学担当にて貸出用ipadも常備し、必要な設備は適切に整備されている。本年度は、タッチペンが常備されるようになり、ICTを活用した模擬授業の質が向上した。

[効果が上がっている事項]

・シラバス内容確認を教職・保育職委員会にて行うことにより、科目相互とそれ以外の学科科目の系統性の充実を図るべく努力し、教職・保育職委員会の活性化にも繋がっている。教職科目の中で、何をどのように取り上げていくのか、担当者間での情報提供と共通理解が緊要であるため、シラバス内容など引き続き共有・点検していきたい。

・今日の学校における、ICT機器を活用し情報活用能力を育てる教育への対応が、充分可能となるように「情報リテラシー」「データサイエンス入門」などの情報機器に関する科目や、教科指導法等での利用を中心に、適切な指導が行われている。

・看護師養成課程や栄養士養成課程においてもタブレット動画を活用して意見交換やフィードバックを行うなど、機器に対応できる看護師、栄養士養成を目指しており、学科科目との系統性がみられる。効果的・効率的な業務の推進のためのツールとして捉え、活用を進めている。

[取り組み上の課題]

[取り組み上の課題]

- ・教育実習での経験から、ICT使用に関して「少し困った」と回答した学生は、保健体育の実習生が多かった。「大学でもっとタブレットを使用した授業をやってほしい。」「デジタル教科書を使った模擬授業をしてほしい。」「グループ学習のロイロノートの活用法。」などの意見があった。保健体育指導法のシラバスチェックにおいても、積極的にICTを活用した授業が展開されているとは言えないことが分かった。そこで早速、事前・事後指導からICT（ロイロノート）を活用した授業づくりを取り入れている。また、2021年度入学生からは「教育方法論（ICT活用を含む）」でICTの活用方法を学習している。
- ・養護教諭による保健管理や健康相談等、共同調理場に配置されている栄養教諭による給食管理や給食の時間における食に関する指導等をはじめ、幅広い分野でのICT活用を視野に入れ指導していく。

<本項目の根拠となる資料・データ等>

- ・資料２－（２）－１：2023年度シラバス

<https://navi.koka.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml>

- ・資料２－（２）－２：教職課程コアカリキュラムに係る科目一覧
- ・資料２－（２）－３：令和４年度教育実習におけるICT利用実態アンケート結果

資料2－(2)－2 : コアカリキュラムに係る教職課程科目一覧 2023

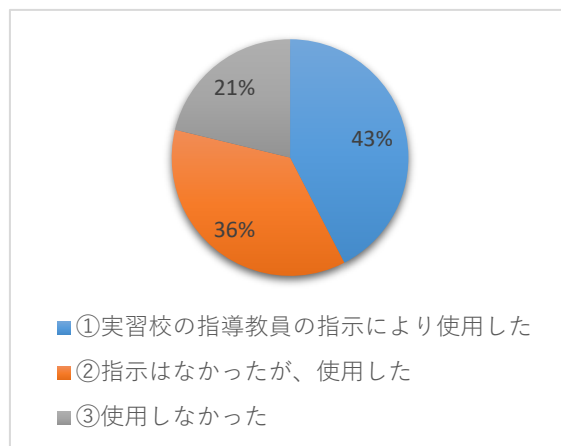
	科目名	免許種	科目コード
■教科及び教科の指導法に関する科目			
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	国語科指導法	【小】	C1075
	社会科指導法	【小】	C1076
	算数科指導法	【小】	C1077
	理科指導法	【小】	C1078
	生活科指導法	【小】	C1079
	音楽科指導法	【小】	C1080
	図工科指導法	【小】	C1081
	家庭科指導法	【小】	C1082
	体育科指導法	【小】	C1083
	英語科指導法	【小】	C1084
	保健体育科指導法Ⅰ	【中・高】	A1083
	保健体育科指導法Ⅱ	【中・高】	A1084
	保健体育科指導法Ⅲ	【中・高】	A1085
	保健体育科指導法Ⅳ	【中・高】	A1086
保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	保育内容総論	【幼】	a…C1021 b…C1022
	保育内容（健康）	【幼】	a…C1033 b…C1164
	保育内容（人間関係）	【幼】	a…C1034 b…C1165
	保育内容（言葉）	【幼】	C1035
	保育内容（環境）	【幼】	C1036
	保育内容（総合表現Ⅰ）	【幼】	C1037
	保育内容（総合表現Ⅱ）	【幼】	C1038
	保育内容（総合表現Ⅲ）	【幼】	a…C1039 b…C1040
	保育内容研究	【幼】	C1027
■教育の基礎的理解に関する科目			
教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理	【幼・小】	C1001/F1104/P1064（共通開講）
	教育原理	【中・高・養・栄】	UK1002/B1003（共通開講）
教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教職論	【幼・小】	C1066
	教職論	【中・高・養・栄】	UK1001
教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	保育者論	【幼】	C1020/F1105/P1065（共通開講）
	教育の制度・運営	【幼・小】	C1004
幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育行政学	【中・高・養・栄】	UK1004
	保育の心理学	【幼】	C1024
	教育心理学	【幼・小】	C1067
特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	教育心理学	【中・高・養・栄】	UK1003
	障害児保育・特別支援教育	【幼・小】	C1062
教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	特別支援教育	【幼・小・中・高・養・栄】	C1093/UK1023（共通開講）
	保育の計画と評価	【幼】	C1023/F1070（共通開講）
	教育課程論（初等）	【幼・小】	C1073
	教育課程論	【中・高・養・栄】	UK1006
■道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目			
道徳の理論及び指導法	道徳教育の理論と指導法（初等）	【小】	C1068
	道徳教育の理論と指導法	【中・高・養・栄】	UK1007
総合的な学習の時間の指導法	※養・栄：道徳・総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容		
特別活動の指導法	総合的な学習の指導法	【小】	C1094
※中：総合的な学習の時間の指導法	特別活動指導論（初等）	【小】	C1069
※高：総合的な探求の時間の指導法	※養・栄：道徳・総合的な探求の時間及び特別活動に関する内容		
教育の方法及び技術・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	特別活動及び総合的な学習の時間	【中・高・養・栄】	UK1008
	保育方法論	【幼】	C1025
	教育方法論（初等）（ICT活用を含む）	【幼・小】	C1071
生徒指導の理論及び方法・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	教育方法論（ICT活用を含む）	【中・高・養・栄】	UK1009
	※養・栄：教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		
進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒指導論（初等）	【小】	C1070
幼児理解の理論及び方法	生徒指導及び進路指導論	【中・高・養・栄】	UK1010
教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	子どもの理解と援助	【幼】	a…C1002 b…C1003
	子ども家庭支援の心理学	【幼】	C1026
	教育相談（初等）	【幼・小】	C1074
	教育相談	【中・高・養・栄】	UK1011
■教育実践に関する科目			
教育実習	教育実習事前・事後指導（幼稚園）	【幼】	C1148
	教育実習事前・事後指導（小学校）	【小】	C1149
	事前・事後指導a	【栄】	UK1017
	事前・事後指導b	【中・高】	UK1018
	事前・事後指導c	【養】	UK1013
	幼稚園教育実習		C1151
	小学校教育実習Ⅰ 小学校教育実習Ⅱ		Ⅰ…C1152 Ⅱ…C1153
	教育実習（中・高）Ⅰ 教育実習（中・高）Ⅱ		Ⅰ…UK1020 Ⅱ…UK1021
	栄養教育実習		UK1019
	養護実習		UK1014
教職実践演習	教職・保育実践演習（教職実践演習（幼・小）		C1154
	教職実践演習（中・高）		UK1016
	教職実践演習（栄養教諭）		UK1022
	教職実践演習（養護教諭）		UK1015

資料 2－（２）－３：令和 4 年度教育実習における ICT 利用実態アンケート

【対象者】 小学校教育実習 14名
中・高（保健体育）教育実習 11名
栄養教育実習 2名
養護実習 6 名

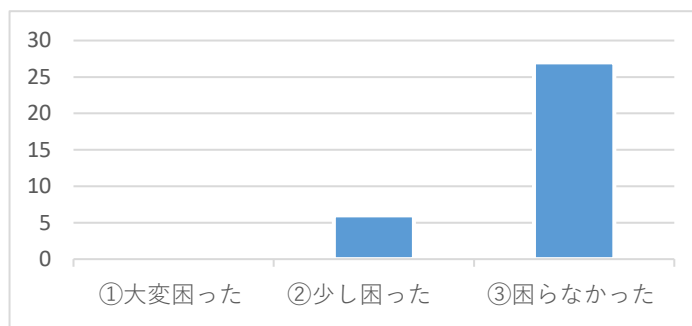
（１）教育実習において ICT（タブレット、電子黒板、PC、プロジェクター、デジタル教科書、eラーニング、学習用ソフトウェア等）を使用しましたか。☑

- ①実習校の指導教員の指示により使用した [14 人]
②指示はなかったが、使用した [12 人]
③使用しなかった [7 人]（小学校 4 人、養護 3 人）



（２）教育実習において ICT の使用に関して困ったことがありましたか。

- ①大変困った [0 人]
②少し困った [6 人]
③困らなかった [27 人]



（３）教育実習での経験から、ICT の使用に関して、大学でもっと学んでおきたかったと思う内容がありましたら、具体的に記述してください。

- ・タブレットを使用した授業をやって欲しい。使い方を教えて欲しい。[保健体育 5 人]
- ・デジタル教科書を使った模擬授業をしてほしかった。[小学校]
- ・ロイロノートなど、子どもの学びを ICT を通して深める授業作り。[養護]
- ・ロイロノートの活用法。グループ学習のロイロノートの活用法など。[栄養]

基準3 教職を担うべき適切な人材（学生）の育成と実践的指導力育成

基準項目3－（1）教職課程の質向上のためのFD・SDとキャリア形成支援

[状況説明]

- ・8月に教職や保育職に就く卒業生を招き「学びつづける先生たちのホームカミングデー」を開催している。”学びつづける”をキーワードに、卒業後のキャリア支援や教職や保育職に就いた卒業生との繋がりを図っている。令和5年度は、大学教員による環境ワークショップ「身の回りの物で液化化現象を再現し、その仕組みを考えよう！」を実施し、教職や保育士課程のFDとしている。オープンキャンパスと同時開催することで教職や保育職に意識の高い入学者を集める狙いもある。（資料3－（1）－1）
- ・小学校教諭や養護教諭、幼稚園教諭を招いて「キャリアイベント」を実施し、将来の自分をイメージすることでキャリアに繋げる機会を提供しており、教職保育職への就職率も良好である。（資料3－（1）－2）
- ・セメスターごとに教職課程科目も含め、全授業科目について実施されている授業アンケートにおいて、令和4年度の学生による評価結果は、肯定的評価「そう思う」「ややそう思う」の合計は、いずれも平均以上であり、授業への満足度は高い。またディプロマポリシー達成状況もほぼ平均以上である。（資料3－（1）－3）
- ・学士課程の質保証の流れの中に「学生の主体的学び」の実現へ向けたFDとして、教育課程体系化と組織的教育を柱にカリキュラム改革、授業内容・方法の改善、教員の授業実施能力の向上など取り組んでおり、各学科が議論し、全学的なFDが実施されている。そして、その結果をFD委員会で全学的に共有している。（資料3－（1）－4）

[効果が上がっている事項]

- ・教職・保育職委員会のなかで、毎回「小さなFD/SD」を実施し、教職員が参加した研修会報告や受講した教職に関わる勉強会の報告を議題の一つとしている。教職員の意識向上を図ると共に、教職課程や授業科目に関する改善方策の立案に繋げる活動となっている。（資料3－（1）－5）
- ・令和5年度より、教職アドバイザーを教職保育職支援センターへ配置し、採用試験対策をはじめ、教師を目指すか悩んでいる学生に対し教員の魅力について語るなど、「オフィスアワー」の時間を設け、豊かな現場経験をもとにアドバイスしキャリア支援の充実を図っている。
- ・教職保育職支援センターでは、教員や保育士への就職を支援する「就職フリーペーパー」を年間3回発行し、採用試験への取り組み方や教職の魅力についても特集しており、学生がやりたいことを明確にし自分の将来をイメージする機会としている。（資料3－（1）－6）
- ・こども教育学科では、文部科学省の委託を受け、中堅幼稚園教員のキャリア形成支援および幼稚園教員の専門性の向上を図ることを目的に、幼稚園免許法認定講習等推進事業「幼稚園教諭免許法認定講習」を実施している。幼稚園教諭二種免許状を有する教員が一種免許状への上進が可能となるよう、希望者を対象に免許法認定講習を開設・実施し、二種免許状を有する教育職員の専門性の向上および、学び続ける教員を育成する。受講者は、本認定講習を受講することで、自己課題を明確にし、PDCAサイクルを循環させながらスパイラルに専門性を向上するとともに、若手教員のモデルとなる牽引的な役割を果たす教育職員としての成長が期待されている。また、地域教育課題を踏まえ、教育委員会との組織的な連携協力体制の構築を意識し、キャリア支援を充実させる観点から、地域の多様な人材との連携を取っている。
- ・教職や保育職へ意識の高い入学者を集めることを目的に、京都府保育協会・京都市保育園連盟主催の『保育進学フェア～保育士になるための進学相談会～』へ教職員協働で出展し、併設幼稚園の利点や幼児教育コースを紹介する機会を得た。直接、保育職に関心のある高校生へ職の魅力についてもアピールすることが出来た。

<本項目の根拠となる資料・データ等>

・資料3－(1)－1：

「学びつづける先生たちのホームカミングデー2023」

<https://www.koka.ac.jp/child/news/3644/>



・資料3－(1)－2：教員・保育職関係就職者数 / 教員免許・保育士資格取得者数

2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
57.6% (49/85)	71.7% (71/99)	67.2% (76/113)	76.1% (70/92)	71.4% (70/98)

・資料3－(1)－3：IRに係る情報(2022年度)

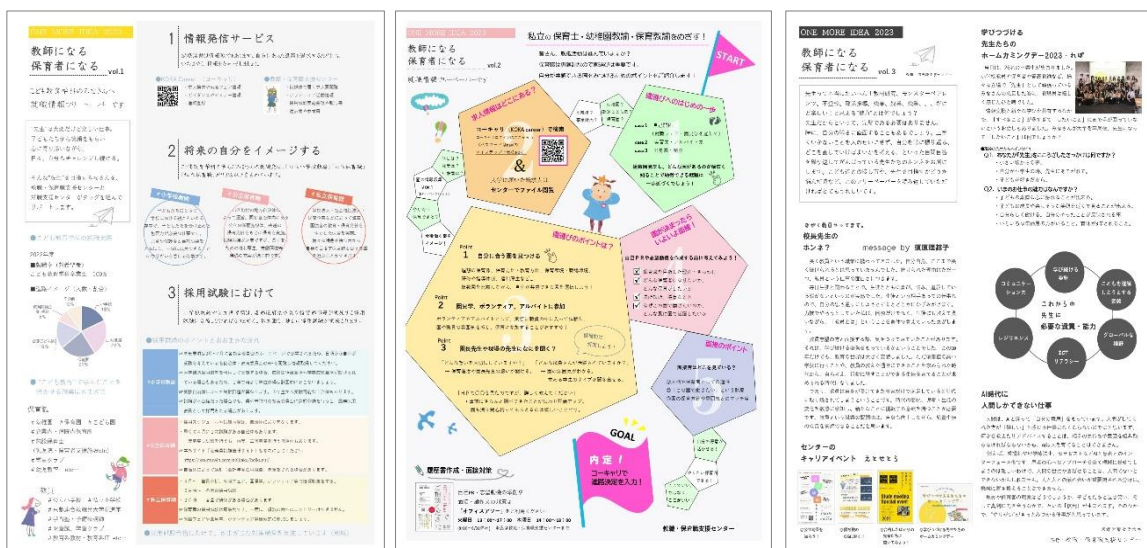
https://www.koka.ac.jp/wp-content/themes/www/assets/file/introduction/publish/ir_2022.pdf

・資料3－(1)－4：FD委員会資料(2022年度各学科検討会報告書)

・資料3－(1)－5：小さなFD/SD 令和5年度全6回

実施日	テーマ	発表者
①04/12	教育実習におけるICT活用実態について (アンケート結果をもとに)	教職・保育職支援センター
②05/10	教職コアカリキュラムに対応したシラバス作成	教職・保育職支援センター
③07/05	本学看護学科における養護教諭養成の課題 ー養護教諭コアカリキュラム2020の目標を指標と した履修者の到達度からー	看護学科 諏澤ひろえ
④10/04	コアカリキュラム対応表チェック結果と課題 保 育進学フェア出展報告	教職・保育職支援センター
⑤11/08	こども教育学科【保育職】公務員試験対策について	こども教育学科 柳生和代
⑥02/07	2023年度健康科学部 教採不合格要因の分析	健康栄養学科 西川潤

・資料3－(1)－6：就職フリーペーパー vol.1～3



基準3 教職を担うべき適切な人材（学生）の育成と実践的指導力育成

基準項目3－（2）教職課程履修カルテの活用

[状況説明]

- ・「履修カルテ」はUNIPAのシステムの中で、毎年自己評価を入力し自身の学びについて確認し、「教職実践演習」の授業内で各自がこれまでの履修カルテに記載した内容を振り返り学習の総まとめを行う機会を設けている。（資料3－（2）－1）（資料3－（2）－2）
- ・学部学科の小規模性を生かし、学生一人ひとりに丁寧な指導をし、自ら学ぶ力を育てられるよう努めており、令和4年度4年生の履修カルテ自己点検評価シートの集計結果によると、本学学生は「子どもに対する態度」と「他者意見の受容」について肯定的評価（評価5・4計）が高い。教育者としての人間性が形成されていると言えよう。（資料3－（2）－3）

[効果が上がっている事項]

- ・昨年、自己点検評価アンケートで評価値が56.9%と低かった「教材分析力」については、67.1%と少し改善された。
- ・学生は、学習履歴を残すことにより、この履歴をもとにして、自身の学習を振り返ることや、教職に必要な資質や能力の伸長に向けた具体的な計画をたてる。また、毎年次の4月に実施する教職ガイダンスにて、本学が養成する教師像に基づき、教師として必要な資質能力について年次ごとに自己評価をそれぞれ提出させている。振り返りを行うことによって、育成を目指す教師像を学生へ周知すると共に、自己理解を促し、今後の学びに主体的に取り組めるよう促す契機となることが期待される。
- ・4年次には、教職履修カルテ作成完了を報告する完了確認書を提出することにより、入力100%になるよう指導している。

[取り組み上の課題]

- ・アンケートにて、肯定的評価（評価5・4計）の割合が比較的低かったのは、次の4項目である。
①学校教育の社会制度的経営的理解 ②総合的な学習の時間 ③情報機器の活用 ④学習指導法
これらの「幅広い教養を身に付ける」や「専門分野の知識を深める」などの項目については、教壇に立ってからも学びつづける教員として取り組み続ける内容である。
- ・評価において「どちらとも言えない」と回答した学生が多く、曖昧な回答となっており、しっかり学びを身に付けた実感がないなど全体的に自己肯定感が低い傾向にある。学びが実感できる実践の機会を増やすなど緊要である。次年度からは「どちらとも言えない」という選択肢は無くす。
- ・養護教諭及び栄養教諭は、学校の中にあつて「教師」とであると同時に、他の教諭等とは異なる専門性を有するとともに、その職務についても、子供たちの健康課題に対する個別的な対応を担うなど、授業における教科等の指導を日常的に行う教諭等とは異なる性格を有していることを、評価の際に考慮する必要がある。
- ・教員が、学生の到達目標達成状況、履修状況や必要な資質が身に付いているかを把握し、「教職実践演習」にて授業運営に役立てるよう、教職課程履修カルテを今後メンテナンスしていくことも検討する。

<本項目の根拠となる資料・データ等>

- ・資料3－（2）－3・4. 5：令和4年度 教職課程「履修カルテ」自己評価シート集計結果

＊令和4年度教育職員免許取得予定者85名に実施（2022年11月実施）

（2）－3：こども教育学部66名 （2）－4：健康科学部19名（健康栄養学科13名、看護学科6名） （2）－5：年度比較

評価基準：【５】強く思う 【４】そう思う 【３】どちらとも言えない 【２】そう思わない 【１】全くそう思わない

評価項目		【1】	【2】	【3】	【4】	【5】	【５・４】計
1. 「建学の精神」である真実心を教育理念とした信念のある教師							
1－1. 「主体的な人間」「共に生きる人間」をめざす							
・教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責務を理解していますか。	1【教職の意義】	1	0	2	49	14	95.5%
・教育の理念、教育に関する歴史・思想についての基礎理論・知識を習得していますか。	2【教育の理念・教育史・思想の理解】	0	2	16	42	6	72.7%
・学校(幼児)教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識を習得していますか。	3【学校教育の社会的・制度的・経営的理解】	0	2	19	40	5	68.2%
1－2. 子どもの主体性や能力を大切に作る							
・子ども理解のために必要な心理・発達論の基礎知識を習得していますか。	4【心理・発達論的な子ども理解】	0	2	17	43	4	71.2%
・子どもの声を真摯に受け止め、公平で受容的な態度で接することができますか。	5【公平・受容的態度】	1	0	4	44	17	92.4%
2. 幅広い識見と専門的な知識を有する実践力のある教師							
2－1. 幅広い教養を身につける							
・教育課程の編成に関する基礎理論・知識を習得していますか。	6【教育課程の構成に関する基礎理論・知識】	0	2	17	43	4	71.2%
・道徳教育・特別活動の指導法や内容に関する基礎理論・知識を習得していますか。	7【道徳教育・特別活動】	0	0	15	44	7	77.3%
・「総合的な学習の時間」の指導法や内容に関する基礎理論・知識を習得していますか。 ※幼児教育コースの学生は回答不要。（三免取得希望の学生は回答すること）	8【総合的な学習の時間】	0	1	14	22	6	65.1%
・情報教育機器の活用に係る基礎理論・知識を習得していますか。	9【情報機器の活用】	0	5	19	35	7	63.6%
・学習指導法に係る基礎理論・知識を習得していますか。 ※幼児教育コースの学生は回答不要。（三免取得希望の学生は回答すること）	10【学習指導法】	0	1	12	22	6	68.3%
2－2. 専門分野の知識を究める							
・これまで履修した各教科に関する指導の内容について理解していますか。	11【教科】	0	1	9	48	8	84.8%
・学習指導要領の内容を理解していますか。	12【教科書・学習指導要領】	0	2	22	39	3	63.6%
2－3. 理論を実践へいかそうとする							
・教材を分析することができますか。	13【教材分析能力】	0	4	17	38	7	68.2%
・教材研究を生かした授業を構想し、子どもの反応を想定した指導案としてまとめることができますか。子どもの姿に即した指導計画を立案することができますか。	14【保育・授業構想力】	1	0	11	47	7	81.8%
・指導計画に沿った適切な教材研究や準備ができますか。	15【教材開発力】	0	1	13	43	9	78.8%
・子どもの反応を生かし、皆で協力しながら保育・授業を展開することができますか。	16【保育・授業展開力】	0	1	15	44	6	75.8%
・保育を実践する上での基本的な表現の技術を身につけていますか。板書や発問、的確な話し方など授業を行う上での基本的な表現の技術を身に付けていますか。	17【表現技術】	0	1	17	42	6	72.7%
・保育を行う場の環境設定、安全・衛生面の配慮をすることができますか。学級経営案を作成することができますか。	18【学級経営力】	0	1	16	40	9	74.2%
3. 教職に対する使命と責任を重んじ、子ども・児童・生徒を大切に作る教師							
3－1. 誠意をもって子どもに向かう							
・子どもたちの発達段階を考慮して、適切に接することができますか。	19【発達段階に対応したコミュニケーション】	0	0	9	44	13	86.4%
・気軽に子どもと顔を合わせたり、相談に乗ったりするなど、親しみを持った態度で接することができますか。	20【子どもに対する態度】	0	0	3	37	26	95.5%
・挨拶、言葉遣い、服装、他人への接し方など、社会人としての基本的な事項が身についていますか。	21【社会人としての基本】	0	0	4	36	26	93.9%
3－2. 子ども一人ひとりに対して愛情をもって理解しようとする。							0.0%
・学習集団形成に必要な基礎理論・知識を習得していますか。	22【学習集団の形成】	0	1	13	47	5	78.8%
・いじめ(子ども困り)、不登校(不登園)、特別支援教育などについて、個々の子どもの特性や状況に応じた対応の方法を理解していますか。	23【子どもの状況に応じた対応】	0	2	19	38	7	68.2%
4. 保護者・地域と連携した開かれた学校づくりを担う教師							
4－1. 多面的な視点で思考する							
・他者の意見やアドバイスに耳を傾け、理解や協力を得て課題に取り組むことができますか。	24【他者意見の受容】	1	0	4	41	20	92.4%
・他者と共同して授業を企画・運営・展開することができますか。	25【共同授業実施】	0	1	7	40	18	87.9%
4－2. 必要に応じて他者と共同作業ができる							
・集団において、他者と協力して課題に取り組むことができますか。	26【他者との連携・協力】	0	0	5	36	25	92.4%
・保護者や地域との連携・協力の重要性を理解していますか。	27【保護者・地域との連携協力】	0	0	6	39	21	90.9%
4－3. リーダーシップを発揮できる							
・集団において、率先して自らの役割を見つれたり、与えられた役割をきちんとこなすことができますか。	28【役割遂行】	0	2	7	43	14	86.4%
5. 社会の変化に柔軟に対応しうる指導力となる教師							
5－1. 現在の諸問題に取り組む姿勢をもつ							
・いじめ(子ども困り)、不登校(不登園)、特別支援教育などの学校教育に関する新たな課題に関心をもち、自分なりに意見を持つことができますか。	29【教育時事問題】	0	1	7	38	20	87.9%
5－2. 自己研鑽を重ねる努力をする							
・自己の課題を認識し、その解決にむけて、学び続ける姿勢を持っていますか。	30【課題認識と探求心】	1	0	7	34	24	87.9%

評価基準：【５】強く思う 【４】そう思う 【３】どちらとも言えない 【２】そう思わない 【１】全くそう思わない

評価項目		【1】	【2】	【3】	【4】	【5】	【５・４】計
1. 「建学の精神」である真実心を教育理念とした信念のある教師							
1－1. 「主体的な人間」「共に生きる人間」をめざす							
・教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責務を理解していますか。	1【教職の意義】	0	0	2	13	4	89.5%
・教育の理念、教育に関する歴史・思想についての基礎理論・知識を習得していますか。	2【教育の理念・教育史・思想の理解】	0	0	7	11	1	63.2%
・学校(幼児)教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識を習得していますか。	3【学校教育の社会的・制度的・経営的理解】	0	0	9	9	1	52.6%
1－2. 子どもの主体性や能力を大切に作る							
・子ども理解のために必要な心理・発達論の基礎知識を習得していますか。	4【心理・発達論的な子ども理解】	0	0	6	12	1	68.4%
・子どもの声を真摯に受け止め、公平で受容的な態度で接することができますか。	5【公平・受容的態度】	0	0	0	8	11	100.0%
2. 幅広い識見と専門的な知識を有する実践力のある教師							
2－1. 幅広い教養を身につける							
・教育課程の編成に関する基礎理論・知識を習得していますか。	6【教育課程の構成に関する基礎理論・知識】	0	0	6	12	1	68.4%
・道徳教育・特別活動の指導法や内容に関する基礎理論・知識を習得していますか。	7【道徳教育・特別活動】	0	0	5	14	0	73.7%
・「総合的な学習の時間」の指導法や内容に関する基礎理論・知識を習得していますか。 ※幼児教育コースの学生は回答不要。（三免取得希望の学生は回答すること）	8【総合的な学習の時間】	0	0	7	12	0	63.2%
・情報教育機器の活用に係る基礎理論・知識を習得していますか。	9【情報機器の活用】	0	1	6	10	2	63.2%
・学習指導法に係る基礎理論・知識を習得していますか。 ※幼児教育コースの学生は回答不要。（三免取得希望の学生は回答すること）	10【学習指導法】	0	0	9	10	0	52.6%
2－2. 専門分野の知識を究める							
・これまで履修した各教科に関する指導の内容について理解していますか。	11【教科】	0	0	8	8	3	57.9%
・学習指導要領の内容を理解していますか。	12【教科書・学習指導要領】	0	0	4	14	1	78.9%
2－3. 理論を実践へいかそうとする							
・教材を分析することができますか。	13【教材分析能力】	0	0	7	7	5	63.2%
・教材研究を生かした授業を構想し、子どもの反応を想定した指導案としてまとめることができますか。子どもの姿に即した指導計画を立案することができますか。	14【保育・授業構想力】	0	0	3	14	2	84.2%
・指導計画に沿った適切な教材研究や準備ができますか。	15【教材開発力】	0	0	3	12	4	84.2%
・子どもの反応を生かし、皆で協力しながら保育・授業を展開することができますか。	16【保育・授業展開力】	0	0	2	13	4	89.5%
・保育を実践する上での基本的な表現の技術を身につけていますか。板書や発問、的確な話し方など授業を行う上での基本的な表現の技術を身に付けていますか。	17【表現技術】	0	0	4	12	3	78.9%
・保育を行う場の環境設定、安全・衛生面の配慮をすることができますか。学級経営案を作成することができますか。	18【学級経営力】	0	0	4	11	4	78.9%
3. 教職に対する使命と責任を重んじ、子ども・児童・生徒を大切に作る教師							
3－1. 誠意をもって子どもに向かう							
・子どもたちの発達段階を考慮して、適切に接することができますか。	19【発達段階に対応したコミュニケーション】	0	0	0	12	7	100.0%
・気軽に子どもと顔を合わせたり、相談に乗ったりするなど、親しみを持った態度で接することができますか。	20【子どもに対する態度】	0	0	0	9	10	100.0%
・挨拶、言葉遣い、服装、他人への接し方など、社会人としての基本的な事項が身についていますか。	21【社会人としての基本】	0	0	1	7	11	94.7%
3－2. 子ども一人ひとりに対して愛情をもって理解しようとする。							0.0%
・学習集団形成に必要な基礎理論・知識を習得していますか。	22【学習集団の形成】	0	0	7	10	2	63.2%
・いじめ(子ども困り)、不登校(不登園)、特別支援教育などについて、個々の子どもの特性や状況に応じた対応の方法を理解していますか。	23【子どもの状況に応じた対応】	0	1	2	13	3	84.2%
4. 保護者・地域と連携した開かれた学校づくりを担う教師							
4－1. 多面的な視点で思考する							
・他者の意見やアドバイスに耳を傾け、理解や協力を得て課題に取り組むことができますか。	24【他者意見の受容】	0	0	0	8	11	100.0%
・他者と共同して授業を企画・運営・展開することができますか。	25【共同授業実施】	0	0	0	11	8	100.0%
4－2. 必要に応じて他者と共同作業ができる							0.0%
・集団において、他者と協力して課題に取り組むことができますか。	26【他者との連携・協力】	0	0	0	8	11	100.0%
・保護者や地域との連携・協力の重要性を理解していますか。	27【保護者・地域との連携協力】	0	0	3	11	5	84.2%
4－3. リーダーシップを発揮できる							0.0%
・集団において、率先して自らの役割を見つれたり、与えられた役割をきちんとこなすことができますか。	28【役割遂行】	0	0	2	11	6	89.5%
5. 社会の変化に柔軟に対応しうる指導力となる教師							
5－1. 現在の諸問題に取り組む姿勢をもつ							
・いじめ(子ども困り)、不登校(不登園)、特別支援教育などの学校教育に関する新たな課題に関心をもち、自分なりに意見を持つことができますか。	29【教育時事問題】	0	0	1	13	5	94.7%
5－2. 自己研鑽を重ねる努力をする							
・自己の課題を認識し、その解決にむけて、学び続ける姿勢を持っていますか。	30【課題認識と探求心】	0	0	0	11	8	100.0%



■2021年度と2022年度の比較

評価項目		5・4計 2021年度	5・4計 2022年度
1. 「建学の精神」である真実心を教育理念とした信念のある教師			
1-1. 「主体的な人間」「共に生きる人間」をめざす			
・教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責務を理解していますか。	1【教職の意義】	97.8%	94.1%
・教育の理念、教育に関する歴史・思想についての基礎理論・知識を習得していますか。	2【教育の理念・教育史・思想の理解】	74.1%	70.6%
・学校(幼児)教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識を習得していますか。	3【学校教育の社会的・制度的・経営的理解】	81.7%	↓64.7%
1-2. 子どもの主体性や能力を大切にすること			
・子ども理解のために必要な心理・発達論の基礎知識を習得していますか。	4【心理・発達論的な子ども理解】	86.0%	↓70.6%
・子どもの声を真摯に受け止め、公平で受容的な態度で接することができますか。	5【公平・受容的態度】	96.7%	94.1%
2. 幅広い識見と専門的な知識を有する実践力のある教師			
2-1. 幅広い教養を身につける			
・教育課程の編成に関する基礎理論・知識を習得していますか。	6【教育課程の編成に関する基礎理論・知識】	78.4%	70.6%
・道德教育・特別活動の指導法や内容に関する基礎理論・知識を習得していますか。	7【道德教育・特別活動】	75.2%	76.5%
・「総合的な学習の時間」の指導法や内容に関する基礎理論・知識を習得していますか。 ※幼児教育コースの学生は回答不要。(三免取得希望の学生は回答すること)	8【総合的な学習の時間】	78.4%	↓64.5%
・情報教育機器の活用に係る基礎理論・知識を習得していますか。	9【情報機器の活用】	67.7%	63.5%
・学習指導法に係る基礎理論・知識を習得していますか。 ※幼児教育コースの学生は回答不要。(三免取得希望の学生は回答すること)	10【学習指導法】	78.4%	↓63.3%
2-2. 専門分野の知識を究める			
・これまで履修した各教科に関する指導の内容について理解していますか。	11【教科】	82.7%	78.8%
・学習指導要領の内容を理解していますか。	12【教科書・学習指導要領】	69.8%	67.1%
2-3. 理論を実践へいかそうとする			
・教材を分析することができますか。	13【教材分析能力】	56.9%	67.1%
・教材研究を生かした授業を構想し、子どもの反応を想定した指導案としてまとめることができますか。子どもの姿に即した指導計画を立案することができますか。	14【保育・授業構想力】	72.0%	70.6%
・指導計画に沿った適切な教材研究や準備ができますか。	15【教材開発力】	80.6%	80.0%
・子どもの反応を生かし、皆で協力しながら保育・授業を展開することができますか。	16【保育・授業展開力】	79.5%	78.8%
・保育を実践する上での基本的な表現の技術を身につけていますか。板書や発問、的確な話し方など授業を行う上での基本的な表現の技術を身に付けていますか。	17【表現技術】	70.9%	74.1%
・保育を行う場の環境設定、安全・衛生面の配慮をすることができますか。学級経営案を作成することができますか。	18【学級経営力】	79.5%	75.3%
3. 教職に対する使命と責任を重んじ、子ども・児童・生徒を大切にする教師			
3-1. 誠意をもって子どもに向かう			
・子どもたちの発達段階を考慮して、適切に接することができますか。	19【発達段階に対応したコミュニケーション】	94.6%	89.4%
・気軽に子どもと顔を合わせたり、相談に乗ったりするなど、親しみを持った態度で接することができますか。	20【子どもに対する態度】	97.8%	96.5%
・挨拶、言葉遣い、服装、他の人への接し方など、社会人としての基本的な事項が身についていますか。	21【社会人としての基本】	91.3%	94.1%
3-2. 子ども一人ひとりに対して愛情をもって理解しようとする。			
・学習集団形成に必要な基礎理論・知識を習得していますか。	22【学習集団の形成】	78.4%	75.3%
・いじめ(子ども困り)、不登校(不登園)、特別支援教育などについて、個々の子どもの特性や状況に応じた対応の方法を理解していますか。	23【子どもの状況に応じた対応】	72.0%	71.8%
4. 保護者・地域と連携した開かれた学校づくりを担う教師			
4-1. 多面的な視点で思考する			
・他者の意見やアドバイスに耳を傾け、理解や協力を得て課題に取り組むことができますか。	24【他者意見の受容】	94.6%	94.1%
・他者と共同して授業を企画・運営・展開することができますか。	25【共同授業実施】	86.6%	90.6%
4-2. 必要に応じて他者と共同作業ができる			
・集団において、他者と協力して課題に取り組むことができますか。	26【他者との連携・協力】	87.0%	94.1%
・保護者や地域との連携・協力の重要性を理解していますか。	27【保護者・地域との連携協力】	88.1%	89.4%
4-3. リーダーシップを発揮できる			
・集団において、率先して自らの役割を見つけたり、与えられた役割をきちんとこなすことができますか。	28【役割遂行】	88.1%	87.1%
5. 社会の変化に柔軟に対応しうる指導力となる教師			
5-1. 現在の諸問題に取り組む姿勢をもつ			
・いじめ(子ども困り)、不登校(不登園)、特別支援教育などの学校教育に関する新たな課題に関心を持ち、自分なりに意見を持つことができますか。	29【教育時事問題】	82.7%	89.4%
5-2. 自己研鑽を重ねる努力をする			
・自己の課題を認識し、その解決にむけて、学び続ける姿勢を持っていますか。	30【課題認識と探求心】	92.4%	90.6%

今後の教職課程教育・運営の課題（総合評価）

コロナ禍の社会情勢を反映し入学者数の減少が生じ、2023年現在も引き続き学生数の充足はコロナ以前の水準に回復していない。さらに、新聞や報道などで教職は多忙・過労働という負の側面が繰り返し取り上げられる社会状況の中で、教職を目指す学生は減少傾向にある。

このような状況にある本学の教職課程の運営において、教職を目指す学生を増やし、適切な支援を行うためには、教職課程に関与するすべての学部教員が意識して教職の魅力や重要性について学生に伝えることが必要であり、教職・保育職委員会及び教職・保育職支援センターと連携して教職マネジメントをさらに促進させていくことが必要である。

そのためにはまず、教職を志望する学生に教員になろうとする強い意志と努力が必要であることを低回生から伝え、教職という専門性の魅力を伝えていく機会をこれまでより増やすことを計画している。そして、早い時期からインターンなどで学校現場に触れ、実践的な指導力を養うことが重要であると同時に、教育現場では、課題を的確にとらえて解決できる教員の養成が求められている。また、多くの仲間と協働しながら納得解を設定できる教員が求められており、そのための方策として現場での実践的な学びと大学での学びを往還させる教育内容になるよう、時代の変化に合わせた改善を行うことが大学としての大きな課題となる。

令和5年度に教職課程の自己点検・評価を実施したことは、教職課程の評価体制を構築するとともに学内で教職課程に関する様々な取り組みを振り返るきっかけとなり、それを活用して今後に向けて以下の4項目について取り組んでいく。

- ① 教職課程を擁する学部の横断的なつながりの構築
- ② 各学科及び教職・保育職支援センター両者からの継続した学生への教職の魅力のアピールと、教職就職者数の増。
- ③ 教職課程を擁する学部・学科への積極的な教員採用試験及びその対策講座などの支援情報発信
- ④ 教職課程履修生の履修状況や学修成果の確認と共有

今後の教職課程自己点検・評価に関しては、大学全体として効果的な自己点検・評価を行う観点から、また、大学全体の内部質的保証体制の充実に係る方向性と整合したものとするため、大学の自己点検・評価と一体的に行う方向で動いていきたい。その報告書は4年以内ごとに公表することとする。

京都光華女子大学
教職・保育職支援センター

センター長 智原 江美

<本項目の根拠となる資料・データ等>

・資料Ⅲ：教員・保育職免許資格取得・就職支援体制と取組み

» 教員・保育職免許資格取得、就職支援体制と取組み

教職・保育職支援センター

1年次	2年次	3年次	4年次
個別相談・アドバイス			
導入（ガイダンス）		フォロー（実習、採用試験対策など）	
●教職ガイダンス(1～4年次) ●studymeeting(自主勉強会) 	●各実習サポート ●プレ論文セミナー 	●各実習サポート ●東アカ採用試験対策講座 ●採用試験模擬試験 ●養護の先生special講座 	●studymeeting(直前対策講座) ●面接&論文セミナー ●幼保なつ特訓（実技対策講座） ●私立保育職就職への支援 ●教員免許・保育士資格申請 
			
センター刊行物 # 教職・保育職支援センターリーフレット  # 対策講座スケジュール  # 就職フリーペーパー  # 教員や保育士（公務員）卒業生紹介パンフレット 			

令和5年度教職課程自己点検評価報告書作成プロセス

1. 令和5年度教職課程自己点検評価実施決定・合意
2023年2月8日 教職・保育職委員会
 2. 教職課程自己点検評価の目的や基本方針の周知、評価項目の確認
小さなFD／SD① 「教育実習におけるICT活用利用実態について（アンケート結果をもとに）」
2023年4月12日 教職・保育職委員会
 3. 教職課程自己点検評価のための対象項目についての点検・評価活動の実施依頼
小さなFD／SD② 「教職科目のシラバス作成と内容の充実について」
2023年5月10日 教職・保育職委員会
2023年5月10日～2023年6月30日（各教職課程へシラバス対応表にてチェック依頼・分析）
 4. 小さなFD／SD③ 「本学看護学科における養護教諭養成の課題」
ー養護教諭コアカリキュラム2020の目標を指標とした履修者の到達度からー
2023年7月5日 教職・保育職委員会
 5. 小さなFD／SD④ 「コアカリキュラム対応表チェック結果と課題」
「保育進学フェア出展報告」
2023年10月4日 教職・保育職委員会
 6. 小さなFD／SD⑤ 「こども教育学科【保育職】公務員試験対策について」
2023年11月8日 教職・保育職委員会
 7. 教職課程自己点検評価内容協議・意見交換（報告書協議・修正等）
2023年12月 臨時教職・保育職委員会
 8. 小さなFD／SD⑥ 「健康科学部 2023年度教採不合格要因の分析」
2024年2月8日 教職・保育職委員会
 9. 京都地区私立大学教職課程研究連絡協議会によるピア・レビュー
2024年1～3月
 10. 大学自己点検評価委員会審議 2024年2月
 11. 大学運営会議承認 2024年2月
- 令和5年度教職課程自己点検評価報告書公表 2024年4月

V 現状基礎データ票

令和5年5月1日現在

設置者： 学校法人 光華女子学園					
大学・学部名：					
京都光華女子大学 こども教育学部 健康科学部					
京都光華女子大学大学院 心理学研究科臨床心理学専攻					
1 卒業（修了）者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 令和4年度卒業（修了）者数	学 部	396			
	大学院	4			
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)	学 部	346			
	大学院	3			
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (幼稚園・小学校・中学校・高等学校・栄養・養護の合計数) * 複数免許状取得者も1と数える	学 部	87			
	大学院	0			
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (小学校・中学校・高等学校・栄養・養護の合計数) * 正規採用＋臨時的任用の合計数	学 部	15			
	大学院	0			
④のうち、正規採用者数					9
④のうち、臨時的任用者数					6
2 教員組織					
教員数	教授	准教授	講師	助教	計
こども教育学科	8	5	4	0	17
健康栄養学科	8	6	3	0	17
看護学科	9	6	7	6	28
専攻科	0	1	2	0	3